

# GBA型ラップ導入 IFA事業を拡大へ 地域銀にも展開検討

岡三証券グループ(G)は、子会社の証券ジャパンにゴールベースアプローチ(GBA)型の投資一任(ラップ)サービスを導入し、IFA(金融商品仲介業者)ビジネスの拡大を図る。証券ジャパンに所属するIFAや地場証券に加え、地域銀行への展開も検討している。

GBA型ラップサービス

ビスでは、顧客の将来のゴールを起点とした資産運用計画の策定、運用から継続的なアフターフォローまでのプロセスを重視。積み立てや取り崩しも可能とし、資産形成層からリタイア層まで幅広い顧客ニーズに対応する。証券ジャパンはGBA型ラップサービスの特長と、原則転勤のないIFAや地域に根ざした地場証券との親和性が高いとみる。同社の中前悟副社長は「顧客の将来にわたってもう1歩入っていくためのサービスが必要になっている」と話し、同サービスの広がり

待する。

同社はQUICKと日本資産運用基盤グループのシステム・ツールを採用することで、開発・導入負担の軽減に加え、稼働後のバックオフィス業務すべてを外部委託できる。2022年内に同サービスの提供を目指す。グループ会社の岡三セツトマネジメントが運用面を担う。

GBA型ラップサービスの展開先として、IFA事業に参入する保険代理店も視野に入る。また、岡三証券Gのネットワークを生かし地域銀行のチャネル開拓にも注力していきたい考え。